

戦評用紙

大会名	第68回東北男女総合バスケットボール選手権大会		
-----	-------------------------	--	--

日時	2013年11月10日 13:30 ~	区分	高体連
----	---------------------	----	-----

チームA				チームB
JR東日本秋田ペッカーズ				東北学院大学
78	26	1Q	19	62
	15	2Q	13	
	17	3Q	11	
	20	4Q	19	
		延長		

【戦評】

両チームハーコートのマツーマンディフェンスでスタート。1Q、学院大は#4、#7のアウトサイドを中心に攻める。一方身長に勝るJR秋田は#24、#9のインサイドからの攻めを中心に攻撃を組み立て、両チームとも点数を重ねる。アウトサイドとインサイドをバランスよく攻め得点を重ねるJR秋田に対して、学院大はアウトサイドのシュートが単発になり、徐々に点差が広がる。1Q終了間際、学院大は速攻からの得点が続きやや点差を詰めたものの19-26、JR秋田7点リードで1Q終了。

2Q、スタートからJR秋田のファールが連続してファールをコールされる。開始2分でチームファールが4つになったところでJR秋田はディフェンスを2-3ゾーンに変える。ディフェンスのリズムが良くなり、リバウンドからの速攻が出るようになったため、点数を重ねた。残り5分、25-34となったところで学院大は1回目のタイムアウト。JR秋田はメンバーを少し変え、ディフェンスをマンツーマンに戻す。JR秋田が着実に得点を重ねるなか、学院大もアウトサイドが良く決まり、なかなか点差が広がらない。32-41の9点差で前半終了。

3Q学院大#25、JR秋田#3と両チームとも3Pシュートでスタート。JR秋田は#24がインサイドを中心に攻め連続得点。開始3分34-50とJR秋田が16点リードしたところで学院大がタイムアウト。学院大は#99を入れリズムを変えようとするが、アウトサイドがなかなか決まらず、インサイドに勝るJR秋田が点数を重ねる。一方学院大も#4のアウトサイドや速攻からの得点で食らいつく。3Qは43-58、JR秋田15点リードで終了する。

4Q、JR秋田は徹底して#9を中心としたインサイドで攻める。一方学院大は#4、#7、#25のアウトサイドで応戦する。JR秋田の点数が止まったところで、学院大が徐々に点数を詰め始め、残り5分53-65となったところで、JR秋田がタイムアウト。学院大がディフェンス、リバウンド、ともに豊富な運動量でリズムをつかみ始めるが、JR秋田#3の3Pが決まり、点差が広がっていった。最後はお互いに点数を重ねたが点差は詰まらず、62-78の16点差でJR秋田が勝利した。

戦評者

神位 裕介

戦評用紙

大会名	第68回東北男女総合バスケットボール選手権大会
-----	-------------------------

日時	2013年11月10日 12:00 ~	区分	
----	---------------------	----	--

チームA				チームB
山形銀行				山形大学
72	17	1Q	18	57
	24	2Q	11	
	17	3Q	10	
	14	4Q	18	
		延長		

【戦評】

第1ピリオド、山形銀行がハーフコートマンツーマン、山形大学が1-2-2ゾーンプレス～2-3ゾーンでスタート。山形銀行は#14のインサイドでのプレイを中心に、山形大学は#4の1on1のプレイを中心にそれぞれ得点を重ねていく。お互いに流れを作らず一進一退の攻防が続く。17-18、山形大学が1点リードで第1ピリオドを終了。第2ピリオドに入ると、山形銀行が速いパス回しとドライブから山形大学のゾーンディフェンスを崩し、ゴール下のシュートなどで着実にリードを広げていく。対する山形大学は相手の厳しいディフェンスの前に思うようにシュートを打たせてもらえず、開始7分間でわずか3得点に抑え込まれてしまう。41-29、山形銀行が12点リードで後半へ。第3ピリオド、開始直後から#10の3P、#14のゴール下シュート、相手のターンオーバーからの速攻も決まり、48-29と一気に勝負を決めにかかる。ここで山形大学がたまたまタイムアウト。その後山形大学#4がこのピリオド8得点と一人気を吐くものの流れは変わらず。58-39、山形銀行がリードを保ったまま第3ピリオドが終了。第4ピリオドに入っても山形銀行#14がオフェンスリバウンドからゴール下のシュートを決めるなどインサイドを支配する。対する山形大学も1on1のドライブからバスケットカウントをもらうなど意地のプレイを見せるが、点差を縮めるまでには至らず、そのまま山形銀行が72-57で勝利した。

戦評者

木村 歩